

3月9日(火)

Neonatal Dept in Singapore General Hospital

報告:古積麻衣子

富田先生、渋谷先生と私は新生児科を見学しました。

①新生児病棟回診

低出生体重児の呼吸を補助するため、CPAP (Continuous Positive Airway Pressure) が使用され、栄養を補うために PI カテーテルからの TPN (Total Parenteral Nutrition) が行われていました。

新生児の診察法としては、頭からつま先まで順に診ていくそうです。

大泉門、小泉門、胸部聴診、腹部触診、モロー反射、把握反射、手指の数、股関節、性器、肛門、脊椎、大体動脈触診、足の指の数を順次診察していきます。

心臓の専門医は、シンガポール国内最大の産科・小児科病院 KKT Hospital から呼び、診察してもらうそうです。

病棟には経頭蓋エコーや血糖値を測定するための小型の機械があり、日常の診療で用いているそうです。

②Neonatal Dept in Singapore General Hospital の紹介

レジデントの Dr. Poon にパワーポイントを使って紹介していただきました。

低出生体重児は 8 歳になるまで外来で経過観察されます。乳児期には聴力検査、視力検査が行われ、幼児期には知能検査がそれに加わり、小学生になると聞き取りや書き取りの能力、学習障害の有無を確認します。わずか 400g~1500g ほどの低出生体重児だった子供たちが退院し、大きくなった姿をうつした写真と Thank you letter が届くそうです。

③入院カルテをもとにディスカッション

入院中の低出生体重時のカルテを見せていただきました。

産科医が、児の出生体重、APGAR score、母体の妊娠・出産・中絶歴、感染症 (HBV、HCV、HIV、GBS) について記載します。次いで児の中枢神経系、心血管系、呼吸器系、血糖値、代謝などについて小児科医が記録するそうです。

シンガポールにも母子手帳があり、その内容は出生時の記録 (身長、体重)、ワクチン名と接種のチェック欄、病院受診の記録 (治療内容と医師名の記入欄)、男女別の身長・体重・頭囲の成長曲線のグラフから成っていました。

小児科病棟では、朝 8 時から病棟回診と各患者のプレゼンテーションがあります。回診が始まる前にレジデントが患者のプロブレムリストを挙げ予めカルテに記載しておき、ボスとともに回診をしたときに診察所見を記載するそうです。